



## 新しく特別支援学級の担任になった方への手引き —新学期のスタートに—

### はじめに

平成19年度から「特別支援教育」がスタートしました。通常学級における特別な支援が必要な児童生徒への対応が重要視され、各学校とも対応が充実してきています。しかし、毎年多くの特別支援学級の担任が入れ替わることで、悩んだり不安に感じたりする状況も多く見られます。

本センターでは、新しく特別支援学級や通級指導教室の担当になった先生方の参考になるよう、平成18年3月に指導資料第14集「新しく特殊学級等の担任になった人のためのQ&A 101+4」を改訂しました。指導資料は本センターのWebページからダウンロードすることができます。

第25集では、特別支援学級の基本的な学級づくりを中心に、新学期に取り組むことについてお知らせいたします。

### 1 始業式までの準備

特別支援学級の担任をすることになってから、始業式までの間にどんなことをしておけばよいでしょう。子どもにとっても保護者にとっても安心して新年度が迎えられるように準備や確認をしましょう。

#### ○ 子どもの様子を確認しましょう。



ポイントは、**健康面・安全面**  
**よさや得意な面** です。

#### 引き継ぎで子どもの様子を確認！

- 前担任から直接引き継ぎをしてもらうことが大切です。難しいようであれば、必要に応じて電話などで子どもの様子を聞きましょう。
  - ◇ 発作、アレルギー、パニックなどの有無、服薬の有無と薬の作用や副作用、体育的活動や宿泊を伴う活動の配慮事項など
  - ◇ 好きな活動、得意な学習・遊び、趣味など
  - ◇ 仲のよい友達、どうしても相性の合わない子どもの情報も含めて
  - ◇ 生活面での配慮、通学路や通学方法など

### 周りの先生方から子どもの様子を確認！

- ・ 在校生であれば、何らかのかかわりを持っていた先生方や職員が校内にいます。ぜひ、直接子どもの様子を聞いてみましょう。
  - ◇ 養護教諭…健康面を始めとして、必ず話を聞きましょう
  - ◇ 校長、教頭、教務主任、交流学級の元担任、事務職員、司書教諭、支援員、介助員、校務員、給食技師など…担任も知り得なかったいろいろな情報、子どものよさを見つけてくれているかもしれません

### ○ 教室環境を整えましょう。



ポイントは、自分の居場所と感じられる温かさ  
見て分かりやすい安心感  
です。

### 前はシンプルに、後ろは季節感たっぷり！

- ・ 基本的に、必要でない教材や教具は倉庫や戸棚にしまいましょう。教室内の戸棚にしまう場合は、カーテンなどで隠すなど、子どもの視野に入らないようにします。黒板の装飾もシンプルにして、刺激を少なくすることで、落ち着いて学習に取り組むことができます。
  - ◇ 正面の黒板は、その授業に必要な情報のみとする
  - ◇ 日程表、日付、天気、当番などは、補助黒板に貼る
  - ◇ 使わないマグネット、天気や日付カードなどは、箱に入れて保管して見えないようにする
- ・ 子どもの作品や学級だよりなどの掲示物は、側面や後ろに貼りましょう。季節の行事に合わせて、子どもと一緒に掲示物を作りながら貼ることもおすすめです。

### 分かりやすく、使いやすく！

- ・ 机やいすは、高さや破損状況を確認しましょう。また、引き継ぎを基にして、座席の配置を考えます。大きな変化に不安を感じる子どもがいる場合は、前年度とあまり変えずに配置しましょう。新しく仲間になる子どもがいる場合は、様子を見ながら、固定した配置を変えるいい機会と考えられます。
- ・ 靴箱やロッカーなどは、子どもの好きな色やマークなどで、自分の場所を確認したり、入れる道具を決めたりすると戸惑わずに、スタートできます。
- ・ 教室環境を整える際には、交流学級に机やいす、靴箱、ロッカーなどが必要であるかを忘れずに確認しましょう
- ・ 教室にあると便利なグッズ
  - ◇ 個別の教材を入れるかごや連絡帳などの提出用の箱
  - ◇ パーテーション（学習と休憩の場を仕切るのに便利）
  - ◇ 今日の予定や個別の予定を表示するための、補助黒板やホワイトボード
- ・ 地域のモデルとなりそうな特別支援学級を訪ね、教室環境を見せてもらうことをおすすめします。

## ○ 入学式・始業式の流れを確認しましょう。



ポイントは、 学校全体での共通理解  
保護者とのつながり

です。

### 参加しやすい状況を整える！

- 在校生の場合は、今までの配慮事項や流れを知っている先生方がいるので、確認しましょう。確認したら、全体場で伝えて共通理解をしておきましょう
  - ◇ 始業式は交流学級、または特別支援学級で参加するのかを確認する
  - ◇ 式への参加時間は短かくする
  - ◇ 途中退席した時の休憩場所や対応の仕方を確認する
  - ◇ 式後の活動の流れを確認する

### 保護者と相談しましょう！

- 新学期のスタート後、早い時期に保護者と顔合わせの機会をもち、保護者の願いや考えを聞きながら、学校生活上の配慮点などを確認しましょう。
  - ◇ 健康面・生活面での配慮事項について
  - ◇ つながりのある関係機関
- 新設学級の場合は、引き継いでいる情報が少ないので、関係者（幼稚園、保育園、前籍学校、前担任など）からより多くの情報を得ながら、学校生活上の配慮点などを確認しましょう。
- 新入生の場合は、入学式の流れやその後の動きを確認し、子どもや保護者が安心して学校生活が始まるようにしましょう。
  - ◇ 事前に式の流れを保護者に伝えておく、できれば、リハーサルをする
  - ◇ 子どもの座席位置を配慮する
  - ◇ 発作やパニックになった時の対応の仕方を決めておく
  - ◇ 職員の支援の仕方、座る位置などを確認する
- 校長や教頭、特別支援教育コーディネーターを中心に、入学式前に保護者と顔合わせの機会をもつことができると、入学式当日から子どもに合った支援を行うことができます。



## 2 4月初めの週の活動

この時期には、登校してから下校するまでの「基本的な日課」をつくりましょう。この一日の流れを基本として、一週間の学校生活の流れを工夫していくとよいでしょう。

### ○ 一日の流れをつくりましょう



ポイントは、生活リズム  
子どもの様子を見る  
です。

#### 見通しがもてる生活！

- ・ 継続された学級の場合は、昨年度の基本的な日課や週の流れを基に、必要に応じて子どもたちに合ったものに変えていきましょう。
- ・ 新設の学級の場合は、子どもにゆっくりと付き合いながら、学校生活のリズムがつかめるように活動を組み立てていきましょう。登校から下校まで、子どもが見通しをもって生活できるように、一定の流れがあることが大切です。
  - ◇ 午前と午後にそれぞれ、興味のある活動を入れる
  - ◇ 交流学級への参加の仕方を確認する
  - ◇ ホワイトボードなどに個別の予定を提示する

#### 新しい発見をしましょう！

- ・ 環境の変化によって、子どもたちの姿が引き継ぎとは違った面が見えてくるかもしれません。子どもの新たな面を発見しましょう
- ・ 4月の初めは、交流学級よりも特別支援学級での活動が多くなります。この時期をチャンスと考えて、いろいろな活動にチャレンジしてみましょう。

活動例	期待される効果
学校探検 学校周辺探検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校への適応状況が分かる</li> <li>・ 不安の解消をしたりすることができる</li> </ul>
掲示物づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一緒に画用紙を切ったり、おりがみをしたりすることで、はさみやのりの使い方、手指の巧緻性が分かる</li> <li>・ めあてカードなどの作成で、文字の習得状況が分かる</li> <li>・ 一緒に取り組むことで、担任との関係づくりができる</li> </ul>
本の読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞く様子や集中できる時間が分かる</li> <li>・ 担任や友達との関係づくりができる</li> </ul>
トランプ（神経衰弱やばば抜きなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数の理解度が分かる。ルールのある活動の様子が分かる</li> <li>・ 担任や友達との関係づくりができる</li> </ul>
しりとり・ビンゴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉の語彙数が分かる</li> <li>・ 担任や友達とのコミュニケーションを取ることができる</li> </ul>
校庭の遊具遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体の使い方が分かる。好きな遊具や遊びが分かる</li> <li>・ 一緒に取り組むことで、担任との関係づくりができる</li> </ul>

子どもと一緒に楽しめる活動を計画し、担任との関係づくりを中心にしましょう。子どもたちの姿をつかむ！ここから特別支援学級をスタートしましょう。